

## 軍用橋から市民の橋へ -工兵橋-

NEXCO 西日本コンサルタンツ株式会社

正会員 ○吉富 知佳

フェロー会員 坂手 道明

### 1. はじめに

工兵橋<sup>1)</sup>は、広島市内を流れる京橋川に架かる、幅員1.8m、橋長77.9m<sup>1)</sup>の広島市内唯一の吊り橋で、中区白島北町と東区牛田本町を繋いでいる。明治22（1889）年に旧陸軍工兵第5連隊駐屯地と演習場を結ぶため、駐屯していた工兵隊によって架けられた軍用の橋であった。だが、原子爆弾投下直後は、火の手から逃れるため、多くの人々がこの橋を渡った。1954年（昭和29年）にワイヤーや橋枠が鉄製に変わり<sup>2)</sup>、1986年（昭和61年）の補強で被爆時よりも一回り大きい現在の姿となったが、今でも地元住民に親しまれている。



写真 1. 工兵橋全景（撮影：著者, 2020 年）

### 2. 戦後の軍用橋

この工兵橋のような軍用橋は、軍事機密であるため資料が極めて少なく、残念なことに、今回調査した範囲では、軍用橋をそのまま利用した橋や、戦時中の形状を移設などで受け継いだ橋は国内に残っていなかった。戦後、東京北区赤羽の旧中の橋が歩道橋として、岐阜県渚町の旧渚橋が道路橋として使用されていたが、現在は老朽化により、旧中の橋は下路アーチに架け替え、旧渚橋は撤去され残っていない<sup>3)</sup>。



写真 2. 旧中の橋<sup>3)</sup>



写真 3. 旧渚橋<sup>3)</sup>

### 3. 工兵橋の変遷

文献<sup>4)</sup>によると、工兵橋は前述のとおり 1889年（明治 22 年）に、架橋された。残念ながら、木造とだけあり、どのような橋梁形式かは不明である。1921年（大正 10 年）に吊り橋化されるも、わずか 2 年後の 1923 年（大正 12 年）7 月 11 日に、同じく京橋川に架かる神田橋とともに洪水にて流出し、1933 年（昭和 8 年）に架け替えが行われている。

表 1. 工兵橋の歴史<sup>4)5)6)7)</sup>

年 代	主な出来事
1889年（明治22年）	白島に工兵第五大隊移動(3月). 牛田に工兵作業場. 工兵橋架橋(木造).
1921年（大正10年）	工兵橋を吊り橋化.
1923年（大正12年）	工兵橋, 神田橋流失(7月11日).
1933年（昭和 8年）	工兵橋架け替え.
1945年（昭和20年）	原子爆弾投下(8月6日). 当時ロープは麻製.
1954年（昭和29年）	ワイヤーや橋枠を鉄製に改装.
1986年（昭和61年）	補強工事.

キーワード 工兵橋, 吊り橋, 軍用橋, 被爆, 水の都, リバーフロント地区

連絡先 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目 5 番 7 号 GRANODE 広島 5 階 NEXCO 西日本コンサルタンツ(株) TEL082- 207-1670

1945年（昭和20年）に原子爆弾投下により被災するが、工兵橋は通行可能であったため、牛田側への避難経路となり多くの命を救った<sup>6)</sup>。被災の4年後、1949年（昭和24年）に「広島平和記念都市建設法」が公布され、昭和25年から29年までの平和都市建設5ヵ年計画、昭和29年からは新たに道路整備5箇年計画が始まった。街路計画とともに、原子爆弾とその直後の大水害で失った橋梁の建設も行われ、また、木橋から永久橋への架け替えが順次行われた<sup>7)</sup>。工兵橋も1954年（昭和29年）には改装工事が行われ、ワイヤーや橋柱を鉄製に改装<sup>2)</sup>している。現在の工兵橋は、1986年（昭和61年）に補強工事を行ったもので、塔柱を1.2m高くし14.9mにすると同時にワイヤーロープを太くしたため被爆時の橋梁より一回り大きくなったが、吊り橋の原型はそのまま残された<sup>4)</sup>。90年代になり老朽化した橋を撤去する計画が持ち上がったが、地元住民が反対して計画は撤回され現在に至っている<sup>2)</sup>。



写真4. 昭和20年の工兵橋  
(撮影：著者、2020年 原爆被災説明板より)

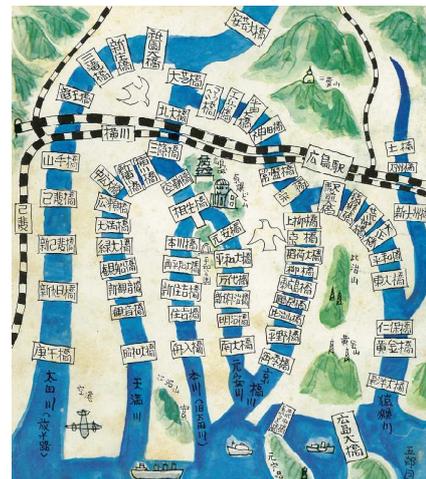


図1. 広島市内の橋<sup>8)</sup>

#### 4. 水の都ひろしまへ

広島市にとって、市街地を取り囲む山々や、デルタを形づくる幾筋もの河川などに代表される水と緑が景観形成上の重要な要素である。また、原子爆弾投下後、75年は草木も生えないと言われたほどの惨状だったため、ここに住む人たちにとって水と緑は特別なものである。広島市では、現在、「つかう」、「つくる」、「つなぐ」の3つの柱を軸に水の都づくりを実現しようとしている<sup>9)</sup>。幸いなことに、目下、工兵橋周辺は、地元住民の散歩コース、子供の遊び場、桜の時期にはお花見が行える憩いの場となっている。さらに、景観計画重点地区（リバーフロント地区）に含まれており、水と緑を生かした潤いと安らぎのある景観づくりを行っている<sup>10)</sup>。



図2. 工兵橋のスケッチ<sup>8)</sup>

#### 5. おわりに

今回紹介した工兵橋は、洪水による流出や老朽化による撤去の危機はあったが、架橋して約130年、その間、軍用橋から市民の橋となりその名は受け継がれてきた。今後も平和都市広島象徴として、また水の都ひろしまにふさわしい景観の一部として次の世代に残していきたい。

参考文献：

- 1) 建設省 広島国道工事事務所『広島国道のあゆみ』昭和63年，p.132-137
- 2) 『読売新聞』2009年2月15日 朝刊29面「記憶をたずねて 被爆建造物から」
- 3) 社団法人 日本橋梁建設協会『日本の橋（増訂版）』1994年6月1日，p.108-112
- 4) 広島都市生活研究会『河岸の戦後史2 京橋川』1986年3月31日，p.11，p.13，p.92-93
- 5) 広島市水道局『広島市水道百年史』1998年8月25日，p.61
- 6) 広島市役所『広島原爆戦災誌』1971年9月6日，p.199，p.206-209
- 7) 那須正幹 文，西村繁男 絵『絵本で読む 広島原爆』2018年9月20日，p.36-37，p.76-77
- 8) 四国五郎『広島県民文庫 広島探検叢書 No.1 広島百橋』1975年4月30日，p.31，裏表紙
- 9) 広島市『水の都をつくるための基本方針』（最終閲覧日：2020年3月18日）
- 10) 広島市『広島市景観計画概要版』（最終閲覧日：2020年3月18日）